

亀の子クラブ

環境ボランティアサークル 亀の子隊 通信

NO.78 平成20年9月7日号

発行責任 亀の子隊事務局

夏の日の残骸が・・・

今回は発行がかなり遅れてしまいました。
すいません。

さて、この日の活動には豊田市にある高橋交流館の行事に参加した小中高校生とリーダー役の大学生などが68名参加してくれました。

2008年8月17日
ゴミの総重量
110KG



前日から3泊4日の予定で渥美に来ていた子どもたちは朝早い活動に少々お疲れ気味でした。普段見ることのない海を見ても歓声が聞こえませんでした。それでも、リーダーの大学生の指示で元気よくあいさつをして活動が始まると、さっさと浜に降りゴミを拾い始めてくれました。



浜は、そんなに多くのゴミはなかったように思いますが、さすがに夏。浜で楽しんだ残骸があちらこちらにありました。普段のゴミももちろんうれしくはありませんが、こういうゴミを見ると少々怒りを覚えますね。自分たちが楽しめば後はどうなってもいいのかって。



まあ、毎年のことですが、遊ぶ人たちにはマナーという言葉はないのでしょうか。

すぐ左の写真は砂浜に突き刺された花火の残骸です。高橋交流館から参加した子どもたちはどう思ったでしょう。



これとは違うと思いますが、浜には木切れが集められた無色透明の袋、空き缶が集められた袋なども堤防にありました。いったい誰が集めたのでしょうか？

今回は三角州のようになっている活動場所の両側に広がった活動でした。南側では、砂に埋まった網を掘



り出そうとする子や防潮堤の岩に引っかかった網を取ろうとする子がいました。北側では、防潮堤の岩まで打ち上げられたゴミと一緒に骨になったスナメリを見つけました。いつ見ても悲しい姿です。

